

オートサービスショー2005

整備が創る人と車と社会の絆



①受入点検をリアルタイムに表示できるシステム。ユーザーに部品の役割や交換の必要性を理解させる動画を表示させることもできる。



インターネット経由で様々な自動車の最新ソフトウェアをダウンロードできるテスト類。高価なカセットロムを購入することなく、新型車に対応できる。データ更新費用は会費や車種ごとの課金など、メーカーによって異なる。

「整備が創る人と車と社会の絆」をテーマに、日本自動車機械工具協会が主催する「第30回オートサービスショー2005」が平成17年6月17日(金)～19日(日)の3日間、東京国際展示場(東京ビッグサイト)で行われた。

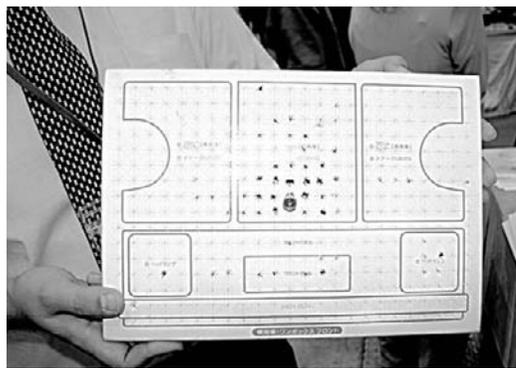
自動車整備機器関係の専門展示会として国内最大規模を誇る同ショーは、整備分野に留まらず、車体や電装、ソフトウェアまで幅を広げた「自動車アフターマーケットの一大イベント」と呼ばれるほどの盛り上がりを見せていた。

会場の多くを占める大手機械工具メーカーブースでは、車検システムの提案が目につく。多くの「テスト類」や、それらと連動してユーザーへ状況をリアルタイムに伝える「コンピュータシステム」が多く展示され、指定整備に対するメーカーの力の入れようがうかがえる。

足回り関係ではマルチテストの消音化や、「ブレーキ・速度計」にサイドスリップテストの機能まで追加した「ブレーキ・速度計・サイ



紫外線で硬化するFRPのシート。破損部に貼るだけで補修ができる。



ボルトやビスをどこから外したのか、分かり易く管理できるアイデア商品。車の部位が印刷された厚紙に、ボルト・ビス・タッピング等を挿し、管理する。



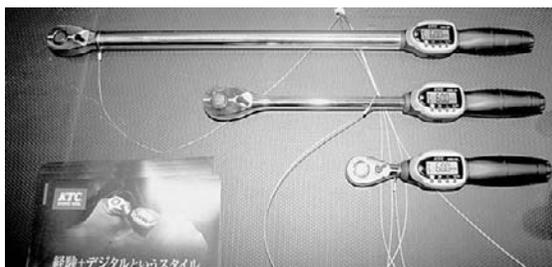
ドスリップマルチテスト」が展示されていた。ライトテストにCCDカメラを搭載し測定結果を別画面に表示、光軸下向き検査にも対応できる製品や、インターネット経由で常に最新車両に対応できるアップデート機能がある診断テスト類が多く出品されていた。

コンピュータシステムは、以前から商品化されていた「IT技術を使った整備の透明性」をさらに熟成させたものが展示されていた。これは、担当者が持つ専用端末から入力される情報をユーザーが別室のモニターでリアルタイムに見ることができるタイプのもので、言うならば指定工場の受入点検～完成検査までをまるでテーマパークのアトラクションを体験するかのごとく「ユーザーが目で見えてわかる」ように表示するシステムだ。作業者は専用端末に表示される項目に従って点検作業を進めていく。ソフトによっては、指定整備記録簿まで自動作成される。

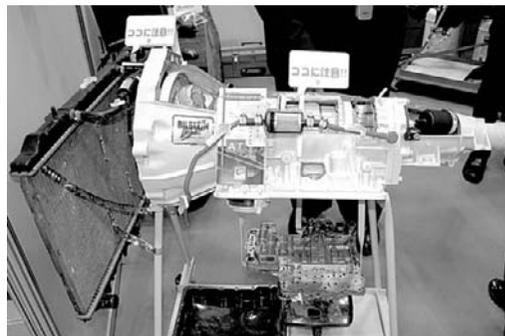
中小企業を中心としたブースでは、アイデア商品を中心とした構成が目立つ。こちらは整備士が作業をする上で親密さを感じる物たちである。傾向として、整備に直接関係する用品よりも、デントリペアや軽板金をサポートする工具や液剤が多く展示されているように感じられた。



手間をかけず、自走不能車を積載車に引き上げる商品。積載車に無理矢理上げ降ろしする労力が軽減できる。



トルクレンチがデジタル表示に！設定をしておけば、音で指定トルクがわかる。



ATFの後付濾過フィルタ。
(11整備 in Tokyo 6月号
41頁参照)

充電式の作業灯。LEDを使用することにより長時間の使用が可能。



ダイナモやクーラーベルトのアジャスタホルトの締め・ゆるめ作業など、通常工具では作業困難な場所でも容易に作業できる特殊レンチ。



外装カスタマイズも立体的な加工が求められる時代。会場では若者を中心に人だかりができてほどの人気を集めていた。

エアブラシで女性の背中に絵を描く美演は多くのギャラリーを集めていた。

